イカナゴ情報 No.1（2022 年 5 月）

令和 4 年 5 月 30 日

道総研

道総研稚内水産試験場調査研究部（担当：佐藤・堀本） Tel. 0162-32-7166

宗谷海峡周辺において主に沖合底びき網により 6～9 月に漁獲されるイカナゴ類[1]の漁獲物調査と漁場環境調査の結果についてお知らせします。

海洋観測：漁場（水深 40～80 m）の底層水温は北部で前年と同程度、南部で高め

宗谷海峡東方海域において 5 月 25～26 日に試験調査船北洋丸によるイカナゴ類漁場の環境調査を行いました（図 1）。観測ラインの水温鉛直断面図をみると、ライン A ではオッタートロールの主漁場となる IS02 より沖側（水深 40 m以深）の海域は水温 6℃以下の水塊が占めていました。ライン B、C ではかけまわしの主漁場となる IS11 や IS14 より沖側（水深 50 m以深）では水温 8℃以下の水塊が漁場全体を占めていました（図 2）。2022 年度の底層水温の分布をみると、昨年に比べて沿岸の広い範囲に暖水が分布しています（図 3）。2022 年度のイカナゴ漁場（水深 40～80 m）の底層水温は、昨年に比べて、オッタートロールの主漁場に近い北側では同程度、かけまわしの主漁場に近い南側はやや高めの水温でした（図 3）。

魚探観測：水深 30～50 m でイカナゴ類とみられる反応を複数確認（図 4）

海洋観測と同じラインで魚探観測を実施しました。ライン A においては水深 50m 付近で海底から深度 20m付近まで伸びる、イカナゴ類とみられる魚群を複数確認しました。ライン B の水深 30～40 mの深度 25m付近でもイカナゴ類とみられる魚群を複数確認しました。ライン C ではイカナゴ類とみられる反応は確認できませんでした。

漁獲物組成：イカナゴは体長 20～22cm 台が中心、小型（15cm 以下）も漁獲

ライン A の IS02 西側（水深 60 m付近）で、オッタートロールによりイカナゴ類の採集を行いました。漁獲標本の体長組成には 20～22 c m台と 15cm 以下に二つのモードが見られました（図 5）。漁獲物を占める割合としては近年と同様に 20～22 c m台の大型の個体が中心でした。漁獲物の主体はイカナゴ類で、その他にはマダラとカジカ類、カスベなどが漁獲されました。

[1] イカナゴ類にはイカナゴ，オオイカナゴ，キタイカナゴの 3 種が含まれる（Orr *et al.*，2015）

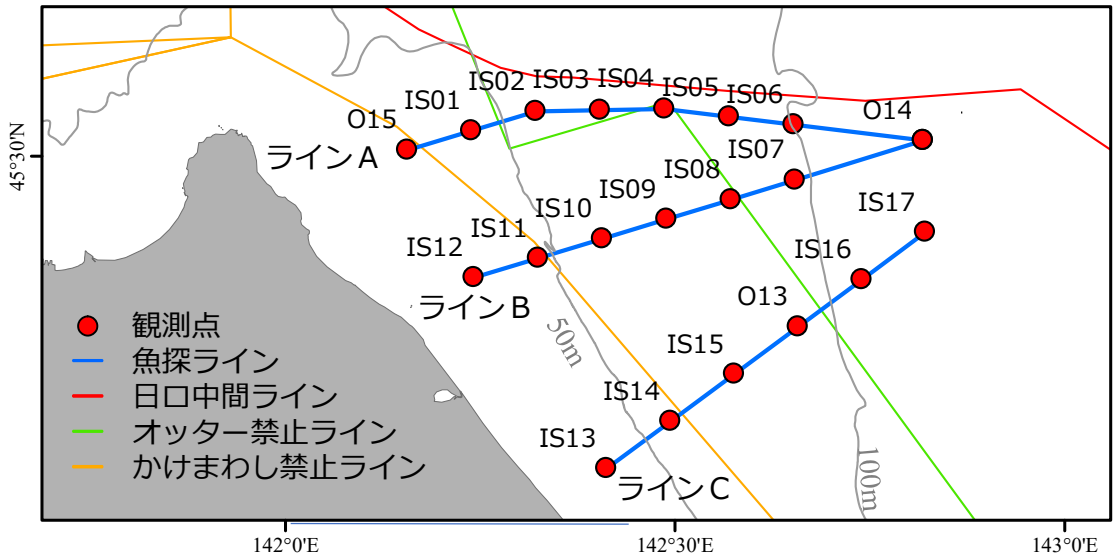

図 1. 海洋観測・魚探観測ラインの位置.

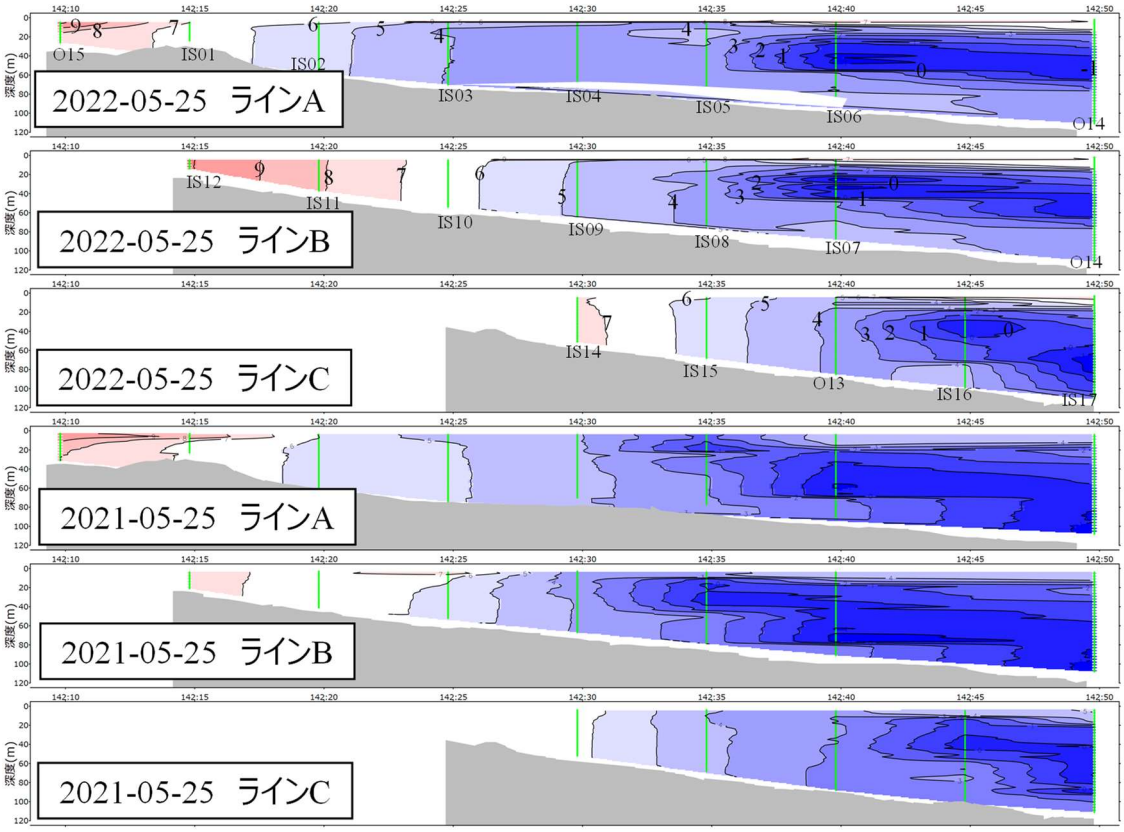

図2. 2021・22年の各調査ラインの水温鉛直分布. IS13(ラインC)は両年とも欠測.

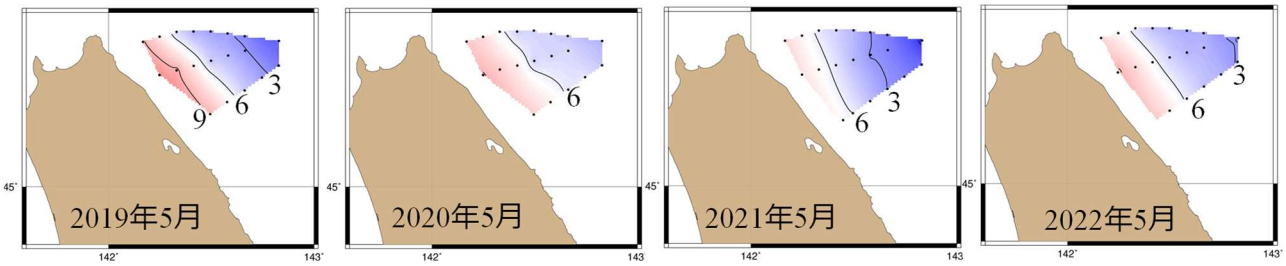

図3. 2019～22年の調査海域における底層水温の水平分布.

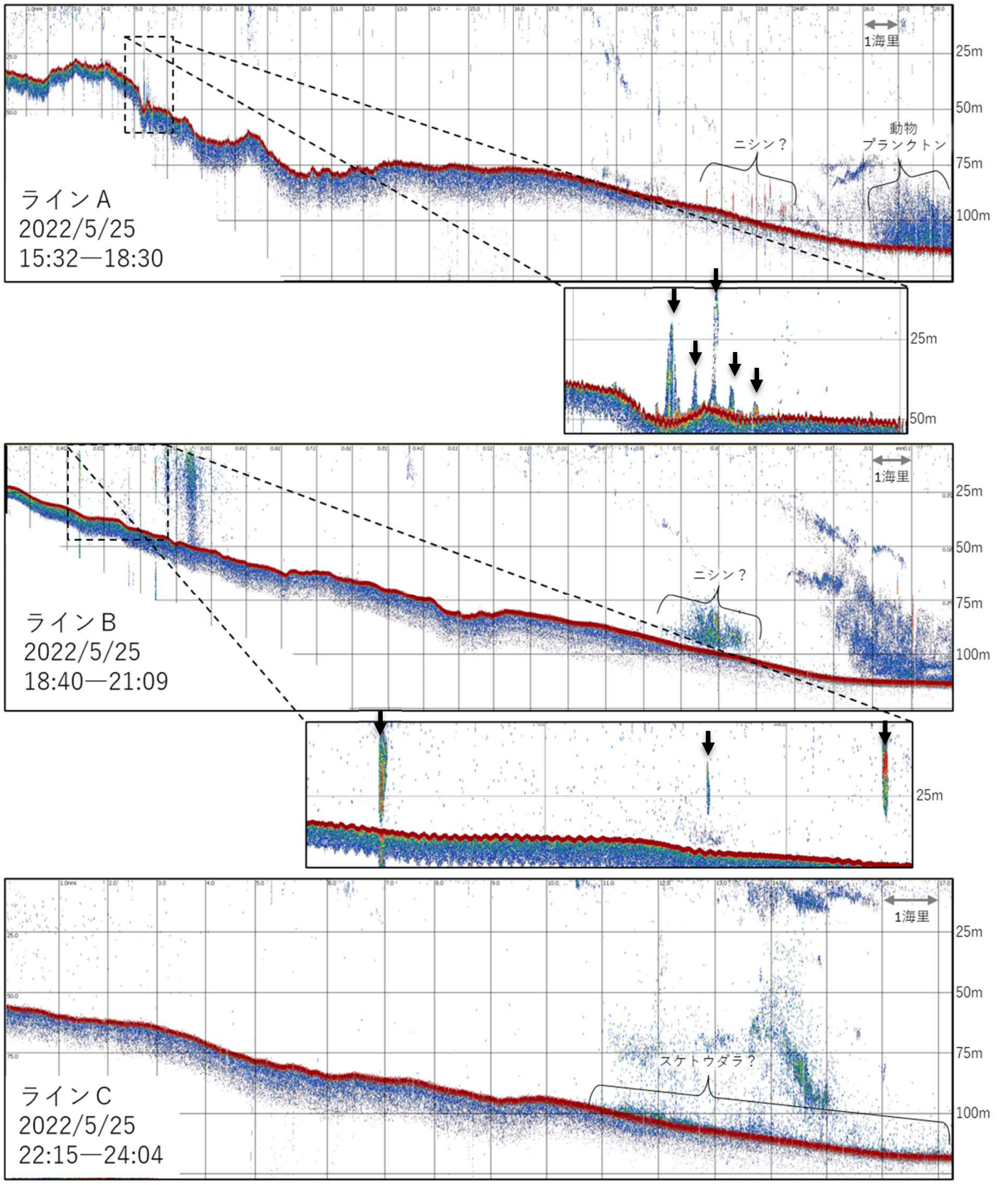

図 4. 観測ライン A・B・C における魚探反応. 各下図は各上図中黒枠内の拡大図. 拡大図中のイカナゴ類とみられる魚群反応を黒矢印で示した。

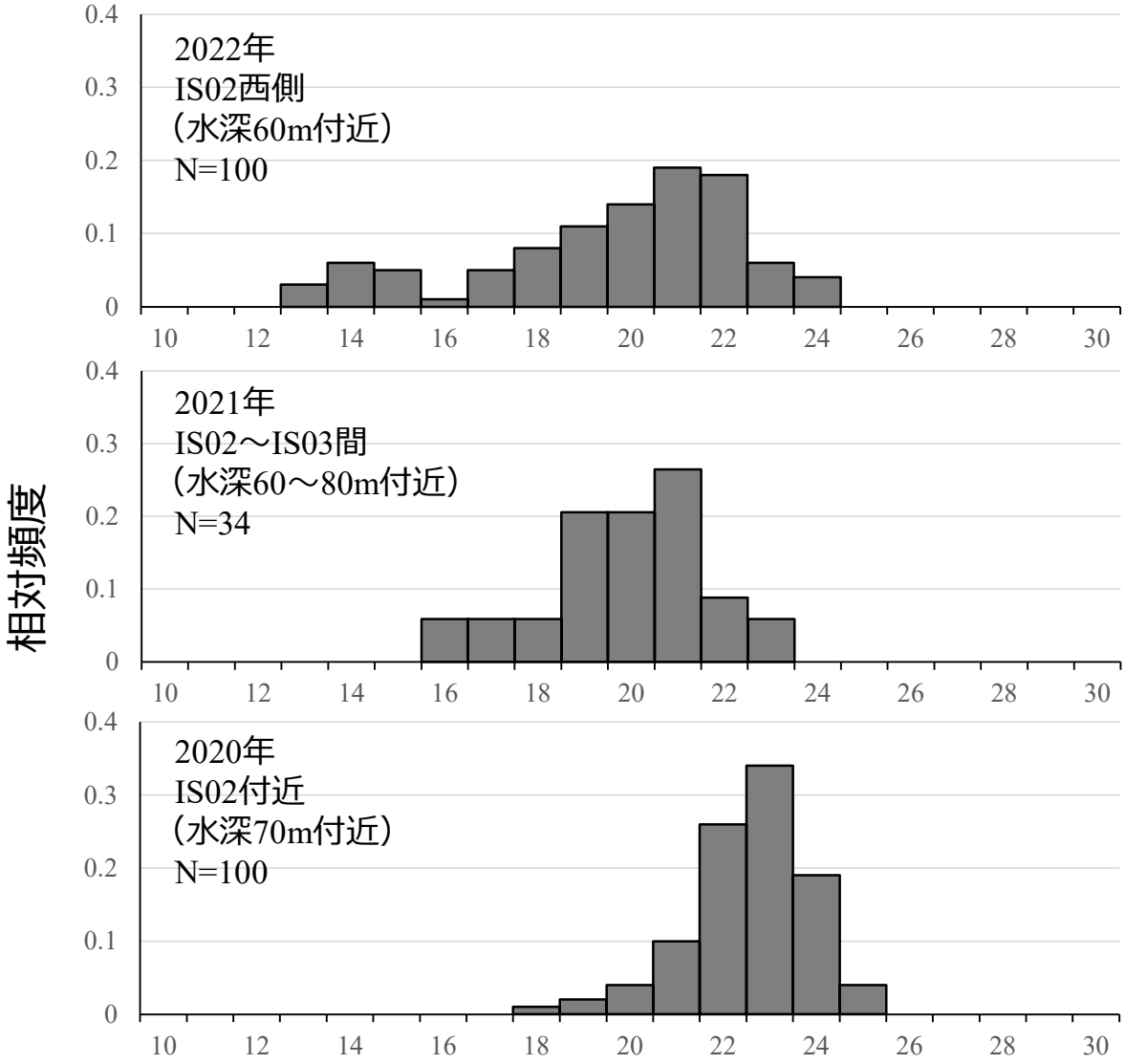

図 5. オッター―トロールで採集したイカナゴ類の体長組成.